

# 薬局だより

## ポリファーマシーについて

ポリファーマシーという言葉をご存知ですか？

ポリファーマシーは「poly（複数）」+「pharmacy（調剤）」からなる言葉で、多くの薬の服用（多剤併用）による害を表します。単に薬の種類・量が多いだけではポリファーマシーではありませんし、決して多剤併用が悪いわけではありません。必要とする以上の薬や不要な薬が処方されていることによって、副作用などのリスク増加や、誤った方法での服薬（服薬過誤）、病気を正しく理解し服薬を積極的に行うこと（服薬アドヒアランス）の低下などの問題に繋がる状態を指します。

実は日本ではポリファーマシーが問題になっています。その背景の一つとしてあるのが急速な高齢化です。高齢になってくると複数の疾患を合併し、様々な診療科を同時に受診することで、知らず知らずのうちに多剤併用になっています。服用する数が多いと正しく服用できていないことも多くポリファーマシーに繋がっていきます。

このようなポリファーマシーを防ぐため、病院では持参薬の確認を行ったり、副作用の治療のために新たな処方が繰り返されて薬の数が増えたりすることを減らす対処をしています。また、調剤薬局でもかかりつけ薬局・かかりつけ薬剤師による薬の一元管理、処方薬だけでなく市販薬の服薬状況の把握、お薬手帳の有効活用、服薬アドヒアランス向上のための一包化や剤形変更の提案、併用薬の相互作用の確認などを通じてポリファーマシーを防いでいます。

決して薬の数が多からといって自己判断で減らしていいわけではありません。ポリファーマシーの解消には単に薬の数を減らすのではなく適正な処方内容への見直しが必要です。今後のさらなる高齢化社会にそなえて、薬剤師はじめ医療関係者はポリファーマシーの解消に努力してきます。

もし薬のことで気になることがあったら、病院、薬局の薬剤師に相談してみましょう。

<参考> 日本ジェネリック製薬協会  
(薬剤科 本多眞貴)

総合南東北病院広報誌「南東北第 344 号」より転載